

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	「仮称」プラリー若松工場新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	------------------	-----	---	--------	----	-----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>*</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.3 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	3.0 /5		ふつう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.02)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.2
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3.1</span>	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3</span> Q2/ 3 対応性・更新性 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3.6</span>
解体時におけるリサイクルを促進する対策を講じている。	空間のゆとりを確保することにより、将来の更新性を高めている。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.3
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3.6</span>	LR2/ 1.1 節水 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3</span>
ライフサイクルCO2排出率を抑制することで地球温暖化防止に貢献している。	
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 3.0
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3</span>	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3</span> LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3</span>
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">3</span>	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">0.84</span>
	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: - <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">0.78</span>
	外構緑化指数 <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">0 %</span>
	建物緑化指数 <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">0 %</span>



: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	「仮称」ブラーー若松工場新築工事	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市若松区向洋町10-5	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	25人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,240時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年10月25日
敷地面積	28,976.00 m <sup>2</sup>	作成者	石橋 孝一
建築面積	10,042.56 m <sup>2</sup>	確認日	2024年11月22日
延床面積	10,913.43 m <sup>2</sup>	確認者	石橋 孝一

  

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)																														
<p><b>BEE = 1.0</b> ★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B-: ★★★ C: ★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★☆ 80%: ★★★☆ 100%: ★★☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>建設</th> <th>修繕・更新・解体</th> <th>運用</th> <th>オンライン</th> <th>オフサイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>84%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>84%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>84%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したもの</p>	項目	建設	修繕・更新・解体	運用	オンライン	オフサイト	①参照値	100%					②建築物の取組み	84%					③上記+②以外の	84%					④上記+	84%						
項目	建設	修繕・更新・解体	運用	オンライン	オフサイト																											
①参照値	100%																															
②建築物の取組み	84%																															
③上記+②以外の	84%																															
④上記+	84%																															

  

2-4 中項目の評価(バーチャート)
<b>Q 環境品質</b>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 2.9</p>
<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 2.9</p>
<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 2.4</p>
<b>LR 環境負荷低減性</b>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 3.3</p>
<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 3.0</p>
<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 3.3</p>

  

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b>	<b>その他</b>
若松球場にほど近い工業専用地域に鉄骨造2階の産業廃棄物処理施設を計画した。	特になし。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>
化学汚染物質を抑制することで空気質環境を健全に保っている。	空間のゆとりを確保することにより、将来の更新性を高めている。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>
断熱性の高い材料の採用することにより、建物外皮の熱負荷を抑制している。	解体時におけるリサイクルを促進する対策を講じている。
<b>LR3 敷地外環境</b>	
	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を抑制することで地球温暖化防止に貢献している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**「仮称」ブラーー若松工場新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.02)

スコアシート 基本設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目							
<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>				0.31		-	<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>			<b>3.0</b>	0.15		-	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル			<b>3.0</b>	0.40		-	
1.2 遮音			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能			3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能			3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-		-	
1.3 吸音			<b>3.0</b>	0.20		-	
<b>2 溫熱環境</b>			<b>2.8</b>	0.35		-	<b>2.8</b>
2.1 室温制御			<b>3.0</b>	0.50		-	
1 室温			3.0	0.38		-	
2 外皮性能			3.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御			<b>2.0</b>	0.20		-	
2.3 空調方式			3.0	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>			<b>2.6</b>	0.25		-	<b>2.6</b>
3.1 昼光利用			<b>1.8</b>	0.30		-	
1 昼光率			1.0	0.60		-	
2 方位別開口			-	-		-	
3 昼光利用設備			3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策			<b>3.0</b>	0.30		-	
1 昼光制御			3.0	1.00		-	
3.3 照度			<b>3.0</b>	0.15		-	
3.4 照明制御			3.0	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>			<b>3.5</b>	0.25		-	<b>3.5</b>
4.1 発生源対策			<b>4.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質	ほぼ全面にF☆☆☆☆☆建材を採用		4.0	1.00		-	
4.2 換気			<b>3.0</b>	0.30		-	
1 換気量			3.0	0.33		-	
2 自然換気性能			3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33		-	
4.3 運用管理			<b>3.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視			-	-		-	
2 喫煙の制御			3.0	1.00		-	
<b>Q2 サービス性能</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>			<b>2.5</b>	0.40		-	<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ			<b>2.3</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性			3.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応			1.0	0.33		-	
3 パリアフリー計画			3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性			<b>2.3</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観			1.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース			3.0	0.33		-	
3 内装計画			3.0	0.33		-	
1.3 維持管理			<b>3.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.9</b>	0.30		-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振			<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			<b>3.0</b>	0.30		-	
1 転体材料の耐用年数			3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			<b>2.8</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備			2.0	0.20		-	
3 電気設備			3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備			3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高:3.9m以上 [壁長さ比率:0.05]<0.1	3.6 5.0 5.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.30 0.30 0.60 0.40 0.30 0.40 0.20	- - -	- -	3.6
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性	-	3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
	1 生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0
	2 まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	-	2.0
	3 地域性・アメニティへの配慮	-	2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.84	-	4.6	0.20	-	-	4.6
2 自然エネルギー利用	-	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEl <sub>m</sub> =0.78	-	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用	-	-	2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価	集合住宅以外の評価	-	2.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価	-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護	-	-	3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水	-	-	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	-	-	3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減	-	-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	外装材+LGS+内装材	-	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	-	-	3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	-	-	3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-	-	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が一般的な建物に対して84%	-	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮	-	-	3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止	燃焼機器の使用なし	-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	-	3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮	-	-	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	-	-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制	-	-	3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

「仮称」ブリーフ-若松工場新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0	-	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	2.0	-	2.0	-	-	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	-	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 集排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	1.0	3.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標****Q1 室内環境**

## 2.1.3 外皮性能

## 3.1.1 昼光率

## 4.2.2 自然換気性能

**Q2 サービス性能**

## 1.1.1 広さ・収納性

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

## 1.2.1 広さ感・景観

## 1.2.2 リフレッシュスペース

## 2.2.1 車体材料の耐用年数

## 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

## 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

## 3.1.1 階高のゆとり

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

## 3.2. 荷重のゆとり

**Q3 室外環境(敷地内)**

## 1 生物資源の保全と創出

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

**LR1 エネルギー**

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

## 2 自然エネルギー利用

## 3 設備システムの高効率化

**LR2 資源・マテリアル**

## 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

## 2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用

## 2.5 持続可能な森林から産出された木材

## 3.2.1 消火剤

## 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

## 3.2.3 冷媒

**LR3 敷地外環境**

## 2.2 温熱環境悪化の改善

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m<sup>2</sup>K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -

昼光率 0.0%

自然換気有効開口面積率 0.0%

執務スペース .0m<sup>2</sup> /人 病床 .0m<sup>2</sup> /床 シングル .0m<sup>2</sup> ツイン .0m<sup>2</sup>コンセント容量 0.0 VA/m<sup>2</sup>

天井高 0 m

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

想定耐用年数 0 年

想定必要間隔 0 年

想定必要間隔 0 年

想定必要間隔 0 年

階高 3.9m以上 m

壁長さ比率 5.0%

床荷重 - N/m<sup>2</sup>

外構緑化指数 31% 建物緑化指数 0%

空地率 65% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 20% 補装面積率 44%

BPI/BPI<sub>m</sub> 0.84 断熱等性能等級 対象外 相当自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m<sup>2</sup> 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

BPI/BPI<sub>m</sub> 非住宅 0.78 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

雨水利用率 0.0%

特定調達品目 - エコマーク商品 長尺シート(ビニル床材等の指定の特定品目等) -

使用比率 0.0%

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

見付面積比 66% 隣棟間隔指標Rw 3.20

地表面対策面積率 20.0% 屋根対策面積率 0.0% 外壁対策面積率 0.0%

見付面積S<sub>b</sub> 2,338m<sup>2</sup> 卓越風向と直交する最大敷地幅W<sub>s</sub> 212.404 m 基準高さH<sub>b</sub> 16,444 m緑地 5,865m<sup>2</sup> 水面 m<sup>2</sup> 保水性対策面 m<sup>2</sup> 高反射対策面 m<sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m<sup>2</sup>